

令和6年度花巻市家庭教育スタンダード

令和6年4月1日 花巻市教育委員会学校教育課

幼少期から育まれる非認知スキルの不足が学力低迷の要因の一つになっていると推測、家庭や地域の支えが必要

花巻市の子どもたちが、**学びを人生や社会に生かす資質・能力**として身に付けられるように、**家庭、地域、学校一体の取組**をお願いします。

項目 発達段階	小学校1・2年生	小学校3・4年生	小学校5・6年生	中学生	高校生	
●安全性● 自他の命を守る力	【子育ての目標】 生命の尊さを教え、安全に生きる術を養うことにより、 自他の命を守る力を 育みましょう					
	<input type="checkbox"/> 信号を守る <input type="checkbox"/> 横断歩道を渡る	<input type="checkbox"/> 左右確認と後方確認をする <input type="checkbox"/> 自転車の乗り方の決まりを守る		<input type="checkbox"/> 相手の立場も考えて、交通ルールやマナーを守る <input type="checkbox"/> 身の回りに潜む危険を予測して、自分の命は自分で守る		
	<input type="checkbox"/> 道路への急な飛び出し、道路のななめ横断は止め、交通安全に気を付ける					
●自律性● がまん 善悪を判断し我慢する力	【子育ての目標】 集団の規律や規則を守り、集団の一員としての言動を育むことにより、 自ら善悪を判断できる力を 育みましょう					
	<input type="checkbox"/> 家の人に進んで元気にあいさつする <input type="checkbox"/> 夜9時に寝る	<input type="checkbox"/> 近所の人に進んで元気にあいさつする <input type="checkbox"/> 夜9時半に寝る	<input type="checkbox"/> 地域の人に進んで元気にあいさつする <input type="checkbox"/> 夜10時に寝る	<input type="checkbox"/> 相手、時、場に応じてあいさつし、友達や他人の気持ちを考えて受け答えをする <input type="checkbox"/> 自分で考えて睡眠時間を確保し、健康管理に気を配る		
	<input type="checkbox"/> 早寝、早起き、朝ごはんの生活リズムをつくる <input type="checkbox"/> 夜9時以降はネット、ゲームをしない	<input type="checkbox"/> 相手を傷つける言葉や乱暴な言葉は使わない <input type="checkbox"/> 家庭でネット、ゲームのルールを決める	<input type="checkbox"/> 清潔を心がけ身だしなみを整える <input type="checkbox"/> ルールを守れなかったときの約束も決める			
●自主性● がんばり 粘り強く頑張る力	【子育ての目標】 成功を認め失敗を励まし、粘り強く取り組み達成感を味わう経験を積み重ねることにより、 自己有用感や自己有能感を 育みましょう					
	<input type="checkbox"/> 朝は自分で起き身支度する <input type="checkbox"/> 簡単な家のお手伝いをする	<input type="checkbox"/> 寝る前に明日の準備をする <input type="checkbox"/> 責任を持ち家のお手伝いをする	<input type="checkbox"/> 自分のものは自分で用意する <input type="checkbox"/> 進んで家のお手伝いをする	<input type="checkbox"/> 自分のことは自分で自己管理する <input type="checkbox"/> 自分で考えて家の役割を行う		
●社会性● コミュニケーションの力	【子育ての目標】 積極的に地域の活動に参加し、地域の仲間との関係で秩序を学ぶことにより、 仲間と共に生きる力を 育みましょう					
	<input type="checkbox"/> 使った物は後片付けする <input type="checkbox"/> 友達を作って仲良く遊ぶ	<input type="checkbox"/> 公共のルールとマナーを守る <input type="checkbox"/> 友達と譲り合って仲良く遊ぶ	<input type="checkbox"/> 子供会や地域の活動に参加する <input type="checkbox"/> 仲間と助け合って行動する	<input type="checkbox"/> 地域の活動や行事で役割を果たす <input type="checkbox"/> 自分や仲間のよさを生かす言動をする		
●勤勉性● 学びに立ち向かう力	【子育ての目標】 家庭学習の習慣を定着させ、発達段階に応じて自らの学習を調整する意識を高めることにより、 学びに立ち向かう力を 育みましょう					
	<input type="checkbox"/> 学年×10分以上家庭学習する（1年10分、2年20分） <input type="checkbox"/> 宿題は必ずする <input type="checkbox"/> 国語と算数は必ずする	<input type="checkbox"/> 学年×10分+5分以上家庭学習する（3年35分、4年45分） <input type="checkbox"/> 自主学習にも取り組む <input type="checkbox"/> 国語と算数は必ずする	<input type="checkbox"/> 学年×10分+10分以上家庭学習する（5年60分、6年70分） <input type="checkbox"/> 苦手な教科にも力を入れる <input type="checkbox"/> 国語と算数は必ずする	<input type="checkbox"/> 平日2時間以上勉強する <input type="checkbox"/> 休日は平日より1時間以上多く勉強する <input type="checkbox"/> 数学と英語は必ずする	<input type="checkbox"/> 平日3時間以上勉強する <input type="checkbox"/> 休日は平日より1時間以上多く勉強する <input type="checkbox"/> 力を入れる教科を考える	

※ 花巻市教育委員会は、平成29年度に花巻市PTA連合会や花巻市教育振興協議会等の教育関連団体のご理解ご協力をいただき、家庭教育の土台を示す「花巻市家庭教育スタンダード」を作成しました。各中学校区では、平成30年度に「花巻市家庭教育スタンダード」の基本的な考え方やそれぞれの地区の実情を踏まえて「〇〇地区家庭教育スタンダード」「〇〇地区家庭生活・家庭学習の手引き」を作成し、子育て世帯に配布して学校、家庭、地域が一体となって子どもの健全育成に努めています。令和2年度以降も学習指導要領改定等に伴う語句や表現の一部を見直しつつ継続しますので、**学校、家庭、地域が一体となって進める「花巻市コミュニティ・スクール」**等の取組に活用願います。併せて、**岩手、花巻の長年の課題である数学、英語の学力向上のため、中学生は家庭学習で「花巻市数学・英語Gアップシート」**を活用するようお願いいたします。

子育て、教育の土台

乳幼児期からのアタッチメント(愛着)→非認知能力(我慢・頑張り・コミュニケーションなど)の育成は人間形成に大切!

中学校は令和元年度から、小学校は令和2年度から急激に情報機器の使用時間が増加しています。専門医の知見によると、スマホなどのIT機器やゲームの長時間利用により、より良い行動の選択などを司る前頭葉の機能が低下するという指摘があり、増加傾向にある小中学生のゲーム依存や近年の小学校段階の学級崩壊との因果関係を心配しています。学校、家庭、地域はこれまで以上に**子どもの生活・学習環境を意識して乳幼児期から発達段階に応じて対策**を講じていただくようお願いいたします。

【気になるデータ】 岩手県学習定着度状況調査児童生徒質問紙調査「携帯電話やスマートフォンの利用時間」

スマホ等の利用時間	小学校5年生						中学校2年生					
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	H30	R元	R2	R3	R4	R5
3時間以上	7%	6%	21%	19%	28%	24%	11%	23%	23%	27%	28%	30%
1時間未満	78%	77%	36%	40%	31%	36%	54%	25%	26%	21%	18%	27%

花巻市の教育の課題と対策は Q&A

Q1 花巻の子どもたちの学力の現状はどうなっていますか。

A1 花巻市ホームページで公表しているとおり、全国、県に比べてここ数年間低下し続けています。

Q2 花巻の子どもたちの学力低下の要因をどう考えていますか。

A2 現時点で児童生徒の学力と意識の低下の要因を裏付け特定できる証拠はありませんが、

- ① 情報機器普及、コロナ禍等、社会や家庭の変化が子どもの生活や学習に影響？
- ② 少子化で高校の定員割れが多くなり、子どもの学ぶ目的意識や保護者の進学ニーズに影響
- ③ 我慢する、頑張る、挑戦する等、価値観の多様化が学び方、生き方、育て方等に影響？
- ④ 変容した子どもの実態にマッチしなくなった学校の教育活動や教育行政の施策の影響？
- ⑤ ①～④は全国・県共通の要因であることから、他に当市独自の本質的な要因があるのかも？等が考えられます。

Q3 児童生徒の学力・意識を改善するためにどのような取組をしていますか。

A3 考えられる要因については早急に躊躇なく改善に着手することが必要であることから、

- ① 児童生徒講話、保護者講演等で学ぶ目的意識、学び方、家庭生活等のマイナス要因の排除
- ② 家庭学習教材Gアップシート提供で、やるべきことの明確化と数学・英語の基礎基本の定着
- ③ 子どもの変化に対応する教員の授業改善の講義・演習・研修
- ④ 学校の教育活動の充実に向けた年度当初・随時の学校訪問指導
- ⑤ 課題解決の方策を共有するために児童生徒の学力・意識の実態を花巻市ホームページに情報掲載、各種会議・講演等で情報提供等を行っています。

Q4 改善に向けた取組の成果は出ていますか、またそれを進める上で課題はありますか。

A4 次のような課題があり、残念ながら成果を数字では確認できていません。

- ① 子どもを取り巻く大人の情報共有を進め、意識改革⇒行動変容を推進したいこと
- ② 具体的には、乳幼児期、学童前期の発達段階に応じた非認知スキル習得の子育て・関り方を広める機会を増やしたいこと
- ③ 学校教育では、教職員の意識高揚と授業改善、これらを推進する適宜適切なリーダーシップを強化したいこと
- ④ 教育行政では、各担当の役割に応じて、フットワークのある具体的な指導・支援を充実したいこと
- ⑤ ①②については、特に、**就学前の子育て中の保護者や小学校低学年児童の保護者対象の講演等の取組を強化したい**こと
③④については、特に、**教職員対象の授業改善を目指す講義・演習・研修を強化したい**こと
成果を数字で確認できるまでには時間を要しますが、これらを地道に進めるしかないと考えています。

教育委員会・学力向上担当は 年間業務スケジュール

情報を適宜迅速正確に発信し、学校の教育活動を支援するよう行動します

【**花巻市ホームページ**】

<時期 重点>

【**学校**】

ご覧いただいていますか？

会議・研修会・学校訪問等で情報・支援の提供

<4～5月 計画を共有し**行動・実践**に向かいましょう>

市HP>暮らし・行政>子育て・教育>教育委員会>計画・指針等>令和6年度花巻市学力向上アクションプラン

●**令和5年度までの花巻市児童生徒の学力・意識の実態**●

●**令和6年度花巻市学力向上アクションプラン**●

●**令和6年度花巻市家庭教育スタンダード**●

学校経営・学校運営充実に向けた年度当初学校訪問
保護者に理解・協力をいただくためのPTA役員説明 (R6新規)
数学・英語家庭学習教材「Gアップシート」配布

<5～2月 改善に向けて要となる**行動・実践**のときです>

児童生徒講話 (中1 悉皆・小5重点)・保護者講演 (低学年保護者重点)・教職員講義 (R6重点)

児童生徒個別指導・保護者個別相談・教職員個別研修
学校経営・学校運営充実に向けた随時学校訪問・各種調査等
ふくろう講座等企画運営、その他各種研修提供等
全国学調等学力調査分析・情報提供等

市HP>暮らし・行政>子育て・教育>教育委員会>令和5年度全国学力・学習状況調査から見える花巻市の状況

●**令和5年度全国学力・学習状況調査から見える花巻市の状況**●

県学調等学力調査分析・情報提供等

市HP>暮らし・行政>子育て・教育>教育委員会>令和5年度岩手県学習定着度状況調査から見える花巻市の状況

●**令和5年度岩手県学習定着度状況調査から見える花巻市の状況、検証資料**●

<2～3月 1年間の**行動・実践**を振り返り次年度に備えましょう>

CRT学力分析・情報提供等
学力保障に係る年度末評価
学力向上アクションプラン、家庭教育スタンダード等次年度計画
学力向上教材「Gアップシート」等更新

学校・教職員は **ゴールから力を入れるべきことを具体化**

自らの職の役割と責任を果たし、組織が機能するよう意識していますか？

花巻市学力向上アクションプラン三つの視点からの取組

1 学級づくり

学級は非認知能力(我慢・頑張り・コミュニケーション)の燃料基地

かつては 家庭・地域こそが非認知能力(我慢・頑張り・コミュニケーション)の燃料基地

学級・学校は社会の一部、児童生徒自らの人格の成長と社会的資質が表出する場

今年1年間のゴールとしては、**受け持っている子ども一人一人が自己有能感、自己有用感、自己肯定感を持ち、節度・規律ある生活と他者を考えた言動ができるようになり、保護者が我が子の成長を実感している。**

そうなるために、**児童生徒の言動が建設的になるように関わったり、児童生徒の人間関係の溝を埋めたりする取組**を実践する。

学級の環境改善に向けて、**個のよさや集団の成長を当たり前と思わず、個や集団の変化や努力を日常的に積極的に前向きに細やかに評価し発信することがポイント**

2 授業づくり

学校経営は生徒指導そのもの、生徒指導は学校生活の大部分を占める教科指導そのもの

今年1年間のゴールとしては、**受け持っている子ども一人一人がそれぞれに学ぼうとする力、学ぶ力、学んだ力を身に付けて、年度末には親子ともに1年間の学習の成果を実感している。**そうなるために、教師主導の場と時間を精選し、**学習の主体が児童生徒にある場と時間を生み出し、個人差を埋めたり個を伸ばさせたりする取組**を実践する。

単元の指導計画作成の段階で、**基礎基本やその評価問題を1時間の授業のまとめに具体的に位置付け、児童生徒が毎時間自己の学習成果を実感できるようにすることがポイント**

3 生活づくり

家庭地域は児童生徒自らの人格の成長と社会的資質が表出する場

かつては 家庭・地域こそが非認知能力(我慢・頑張り・コミュニケーション)の燃料基地

学級・学校は社会の一部、児童生徒自らの人格の成長と社会的資質が表出する場

今年1年間のゴールとしては、**受け持っている子ども一人一人がそれぞれに宿題の有無にかかわらず、授業で学んだことを土台にして、自律的、自主的、建設的に学びに向かっている状況に到達することにある。**

そうなるために、児童生徒を活かす授業の指導技術を磨くことと同等に、**他者を元気にする、子どもや親の気持ちを押し測り前向きにする関わり方**を実践する。

機会をとらえて本人や保護者に児童生徒のよさや頑張っていることを積極的に知らせ、認め、励まして親子の気持ちを前向きにする関わり方がポイント

子ども・児童生徒は **スマホ等IT機器やゲームと学習**

自由と規律を調和し、自立・自律の力を身に付けるよう意識していますか？

スマートフォンなどのIT機器やゲームの長時間利用が健康や脳にダメージを及ぼす危険があるという専門家の指摘は、**今や定説**になっています。子どもたちが携帯電話やスマートフォンを適切に使い、自らの力で学びに立ち向かうことができるように、**児童生徒の皆さんはもちろん、引き続き学校、家庭、地域一体の取組**をお願いします。

【小5・中2の実態】

「平日にどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを利用しますか」に係る花巻市の実態は、小5が令和2年度、中2が令和元年度から長時間利用の割合が急増していました。しかし、**令和5年度は小5で長時間利用が減少、中2で1時間未満が増加**し、ともに望ましい傾向です。

◆ 岩手県学習定着度状況調査児童生徒質問紙調査「携帯電話やスマートフォンの利用時間」

スマホ等の利用時間	小学校5年生						中学校2年生					
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	H30	R元	R2	R3	R4	R5
3時間以上	7%	6%	21%	19%	28%	24%	11%	23%	23%	27%	28%	30%
1時間未満	78%	77%	36%	40%	31%	36%	54%	25%	26%	21%	18%	27%

一方、「学校の授業以外で、平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に係る花巻市の実態は、**小5の1時間以上勉強する割合が令和4年度から減少し、令和5年度は激減**しました。スマホ等の利用時間の減少が家庭学習時間の増加には結びついていない現状です。

◆ 岩手県学習定着度状況調査児童生徒質問紙調査「平日の1日当たりの家庭学習時間」

学習時間	小学校5年生 (○1時間以上・●30分未満)						中学校2年生 (○2時間以上・●1時間未満)					
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	H30	R元	R2	R3	R4	R5
○以上	74%	71%	73%	76%	69%	57%	17%	18%	20%	16%	19%	17%
●未満	6%	4%	6%	5%	6%	10%	31%	34%	29%	30%	31%	34%

【小6・中3の実態】

令和3年度に調査が始まった平日のゲーム時間は、小6が県に比べて非常に多く中3を上回る状況でしたが、**令和4年度は各学校の取組、ご家庭のご理解ご協力等により小6、中3ともに改善傾向**にありました。令和5年度は調査項目から除外され、データはありません。

◆ 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査「平日1日当たりのゲーム時間」

ゲーム時間	小学校6年生			中学校3年生		
	花巻市	岩手県	全国	花巻市	岩手県	全国
令和3年度 2時間以上	52.8%	45.1%	49.7%	50.3%	48.9%	57.0%
令和4年度 2時間以上	48.6%	46.9%	50.2%	41.6%	43.8%	50.3%

これに対して令和3年度の小6、中3の平日の家庭学習時間は、2時間以上で全国との開きが大きくゲーム時間との関係が気でしたが、令和4年度は各学校の取組、ご家庭のご理解ご協力等により小6、中3ともに改善しました。しかし、**令和5年度は再び心配な状況**です。

◆ 全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査「平日1日当たりの家庭学習時間」

学習時間	小学校6年生 (○1時間以上)			中学校3年生 (○2時間以上)		
	花巻市	岩手県	全国	花巻市	岩手県	全国
令和3年度 ○時間以上	69.2%	73.0%	62.5%	18.8%	22.3%	41.8%
令和4年度 ○時間以上	74.1%	71.3%	59.4%	19.7%	19.1%	35.2%
令和5年度 ○時間以上	65.8%	68.4%	57.1%	18.5%	18.5%	35.2%

家庭・保護者は 非認知能力を育む大人の役割

幼少期からの子育てで子どもの自立・自律の力を育むよう意識していますか？

生涯に影響

健康維持・認知能力育成・問題回避などで生活安定

(問題とは；犯罪、いじめ、ハラスメント、DV、虐待など)

土台

我慢

頑張り

コミュニケーション

非認知能力

自分と向き合う力

自分を高める力

人とかかわる力

土台

自制心
忍耐力
レジリエンスなど

自己肯定感
自己有能感
挑戦意欲など

コミュニケーション能力
共感する力
思いやりなど

●学童期以降の手立て●

意識づけと行動を変える(マンダラート活用など)
笑顔、あいさつ、褒め言葉、ねぎらい
よかった探してプラスのストローク(存在認知)

●幼児期～学童期くらいまでの手立て●

自主的で夢中になれる遊び、読み聞かせてアタッチメント(愛着)形成は最強、褒める
早寝早起きなど規則正しい生活習慣、アートやスポーツなど、
リフレーミング(落ち着きがない→エネルギー、
注意散漫→一つにとらわれない等視点を変えて子どもをみること)

学童期以降でも
非認知能力は
伸ばせます

基本的信頼感

アタッチメント(愛着)で子どもの安心基地

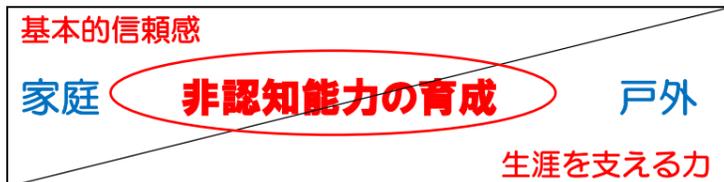
●妊娠中～2歳くらいまでの手立て●

できるだけ子どもの近くにおいて、子どもの求めに応じてすぐに養育にあたる
子どもに優しく触れる、抱っこする、子どもに穏やかに声をかける
子どもをきちんと見て微笑む、子どもの話を聞きながら聞く

子どもの発達・成長

年齢 0~2 3~5 6~12 13~15 16~18 (歳)

依存
他律



自立
自律

家庭 幼保こ 小学校 中学校 高校 ……

社会・大人は 教育改革の受け止めと行動

次代を担う人材育成のため、自らの役割を意識し行動していますか？

●教育に係る社会情勢は●

環境破壊、感染症、戦争等によりVUCAの時代(変動性・不確実性・複雑性・曖昧さの頭文字)、2000年代に始まった「教員免許更新制度」廃止、コミュニティ・スクール導入、働き方改革、コロナ禍テレワーク、タブレット端末、デジタル教科書、部活動選択制・地域移行、SDG's(持続可能)、DX、生成AIなど、矢継ぎ早に新たな取組が登場します。Society 1.0狩猟社会、2.0農耕社会、3.0工業社会、4.0情報社会を経て今はSociety 5.0(仮想空間と現実空間を融合し経済発展と社会的課題解決を両立する社会)、混沌とした社会だからこそすべての人が国の動向を見据えつつ、地に足を据え足元を見定め協働で次世代の人材を育成する子育て、教育を担わなければ乗り越えられない社会です。

●10年周期で改訂される学習指導要領は●

最初の1947年は「コア・カリキュラム」「経験(問題解決)学習」で基礎基本定着不足批判、1958年改訂「系統学習」、1968年改訂「教育の現代化」で詰め込み教育批判、1977年改訂「ゆとり教育」「教育内容精選」、1989年改訂「思考力重視」「新しい学力観」「生活科」、1998年改訂「学校週5日制」「授業時数・教育内容削減」で教育内容削減批判、2008年改訂「確かな学力」「教育内容の充実」、2017年改訂「主体的・対話的で深い学び」と、「思考力育成重視」と「知識・技能習得重視」が往還します。

●今求められている教育の動向は●

長年にわたる「知・徳・体」、1990年代「生きる力」、最近「令和の日本型学校教育～『知・徳・体』を一体で育む学校教育」で、要はバランスの取れた人間教育を目指しています。学力観は、1970年代「自ら考える力」、1980年代「新しい学力観」、その後「新しい時代に必要となる資質・能力(思考力・判断力)」、最近「非認知能力」が注目され「幼児教育」の重要性が取りざたされ、発達段階に応じた連続的成長を大切にしようとの流れです。キーワードは、1970年代「個に応じた指導」から「アクティブ・ラーニング」、「学び合いと協働」、近年「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」「協働的な学び」が加わる5つのキーワードを使って個(一人一人全員)の伸長がゴールです。

★そして、私たちは★

教育に係る社会情勢が激変する中、求められる教育に対応して子どもたちや子育て環境はよりよく変容しているのでしょうか？コミュニティ・スクール導入で子どもの健全育成や学力向上は、働き方改革で教職員の職務効率や授業改善は、部活動選択・地域移行で児童生徒の活動意欲や個性伸長は……、制度の新設変更を行う際は長短何が起きるのかよく議論し、国の動向を見据えつつも自らの地域の実情に応じて改善に向かわなければなりません。

花巻の子どもたちの課題を知り、課題解決に自らの信念を持ち、自分の立場と役割でできることを考え、ともに心と体を動かして子育て、教育に関わっていただくよう、どうか皆様のご理解ご協力をお願いします。